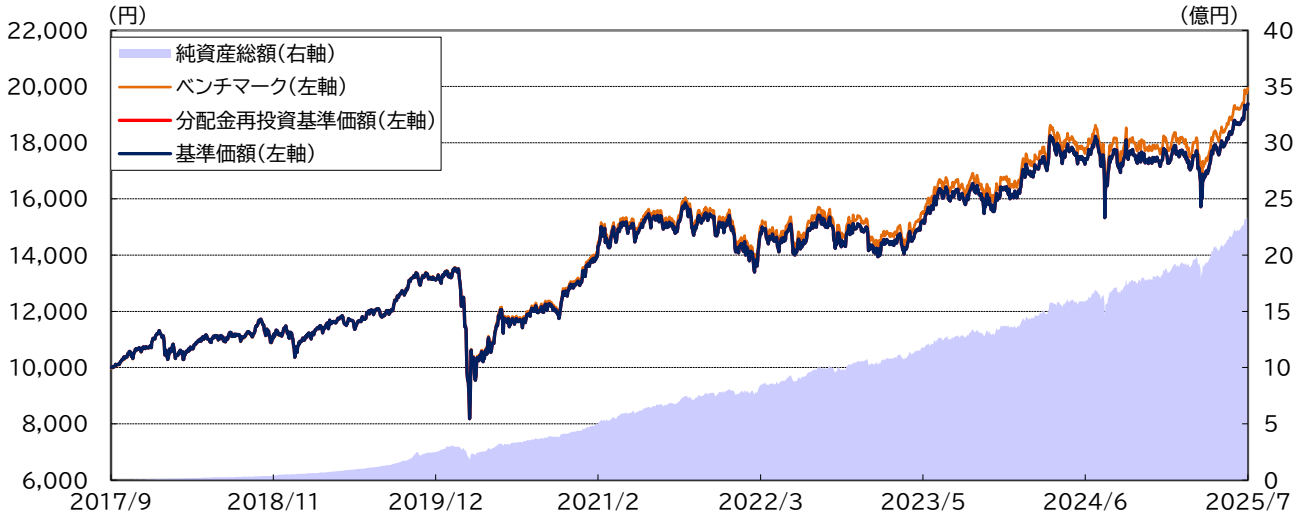


日本株式・Jリートバランスファンド  
追加型投信/国内/資産複合/インデックス型

設定来の基準価額の推移



※基準価額は1万口当たり、作成基準日現在、年率0.209% (税抜0.19%) の信託報酬控除後です。  
 ※分配金再投資基準価額は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。  
 ※ベンチマークは、日経平均トータルリターン・インデックスおよび東証REIT指数 (配当込み) を50:50とした合成指数です。  
 設定日前営業日を10,000としてSBI岡三アセットマネジメントが指数化しております。  
 ※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

基準価額	19,386 円
純資産総額	23.4 億円

※基準価額は1万口当たりです。

騰落率	騰落率						設定来
	1カ月前	3カ月前	6カ月前	1年前	3年前		
分配金再投資基準価額	3.15%	11.93%	8.34%	10.36%	28.98%	93.86%	
ベンチマーク	3.23%	12.07%	8.66%	11.08%	30.35%	99.52%	

※騰落率は、1カ月前、3カ月前、6カ月前、1年前、3年前の各月の月末および設定日との比較です。  
 ※分配金再投資基準価額の設定来騰落率は、1万口当たりの当初設定元本との比較です。  
 ※ベンチマークの設定来騰落率は設定日前営業日の終値との比較です。  
 ※ベンチマークの騰落率は、Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメントが算出しております。

最近5期の分配金の推移	
2020/9/8	0 円
2021/9/8	0 円
2022/9/8	0 円
2023/9/8	0 円
2024/9/9	0 円
設定来合計	0 円

ポートフォリオ構成比率	
日本インデックスオープン225・マザーファンド	50.0%
J-REITインデックス・マザーファンド	50.0%
短期金融商品その他	0.0%

※分配金は1万口当たり、税引前です。運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。  
 ※当ファンドの純資産総額に対する比率です。

日経平均トータルリターン・インデックスの著作権等について

・「日経平均トータルリターン・インデックス」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経平均トータルリターン・インデックス」自体及び「日経平均トータルリターン・インデックス」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。  
 ・「日経」及び「日経平均トータルリターン・インデックス」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属します。  
 ・本件投資信託は、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用及び本件受益権の取引に関して、一切の責任を負いません。  
 ・株式会社日本経済新聞社は、「日経平均トータルリターン・インデックス」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。  
 ・株式会社日本経済新聞社は、「日経平均トータルリターン・インデックス」の構成銘柄、計算方法、その他、「日経平均トータルリターン・インデックス」の内容を変える権利及び公表を停止する権利を有しています。

東証REIT指数 (配当込み) の著作権等について

配当込み東証REIT指数 (以下、「東証REIT指数 (配当込み)」といいます。) の指数値及び東証REIT指数 (配当込み) に係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社 (以下「JPX」といいます。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数 (配当込み) に関するすべての権利・ノウハウ及び東証REIT指数 (配当込み) に係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証REIT指数 (配当込み) の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。当ファンドは、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

## 日本株式・Jリートバランスファンド 追加型投信／国内／資産複合／インデックス型

### 日本インデックスオープン225・マザーファンドの状況

組入上位10銘柄			組入上位10業種		
	銘柄名	比率		業種	比率
1	ファーストリテイリング	8.7%	1	電気機器	25.7%
2	アドバンテスト	6.5%	2	情報・通信業	11.6%
3	東京エレクトロン	6.4%	3	小売業	11.5%
4	ソフトバンクグループ	5.5%	4	化学	5.4%
5	KDDI	2.3%	5	医薬品	5.3%
6	TDK	2.2%	6	機械	4.7%
7	リクルートホールディングス	2.1%	7	サービス業	4.5%
8	中外製薬	1.7%	8	輸送用機器	3.7%
9	信越化学工業	1.7%	9	卸売業	3.2%
10	ファナック	1.7%	10	精密機器	3.1%

※各比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

### J-REITインデックス・マザーファンドの状況

組入上位10銘柄		
	銘柄名	比率
1	日本ビルファンド投資法人	7.4%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	5.7%
3	日本都市ファンド投資法人	5.1%
4	野村不動産マスターファンド投資法人	4.6%
5	KDX不動産投資法人	4.3%
6	GLP投資法人	3.9%
7	日本プロロジスリート投資法人	3.8%
8	大和ハウスリート投資法人	3.6%
9	オリックス不動産投資法人	3.5%
10	インヴィンシブル投資法人	3.3%

※マザーファンドの純資産総額に対する比率です。

### ファンドマネージャーのコメント

#### <投資環境>

国内株式市場は上昇しました。上旬から中旬にかけて、国内株式市場は方向感の乏しい展開となりました。ETFの決算が集中する上旬に分配金原資を捻出するための売りが出やすいという懸念や、日米関税交渉の不透明感、参議院選挙で与党の議席数が過半数を割り込む可能性が意識されたことなどが、株価の上値を抑えました。参議院選挙は事前の予想通り、与党の議席数が過半数を割り込みましたが、日米関税交渉が合意に至ったことが好感され、国内株式市場は大きく上昇し、日経平均株価は4万円台に回復し、東証株価指数(TOPIX)は史上最高値を更新しました。25%が提示されていた自動車の関税率が15%へと引き下げられたことが好感され、特に自動車株が大きく上昇しました。月末にかけては急騰後の高値警戒感もあり、株価はやや値を下げました。

Jリート市場は続伸しました。上旬は高値警戒感から一進一退の展開となりましたが、中旬に発表された東京都心5区のオフィス市況で、空室率の低下と賃料の上昇が確認されたことから、Jリート市場は上昇に転じました。また、Jリート各社が資本効率の改善を意識した戦略を打ち出したことも上昇要因となりました。参議院選挙前に上昇が目立った国内長期金利も、選挙後には上昇が一服したため、下旬のJリート市場はさらに騰勢を強めました。

#### <運用経過>

当月は、マザーファンドを通じた株式およびJ-REITの実質組入比率を、各々純資産総額の50%程度で推移させました。

このような運用の結果、当ファンドの騰落率(分配金再投資基準価額)は、ベンチマークである日経平均トータルリターン・インデックスおよび東証REIT指数(配当込み)を50:50とした合成指数の騰落率を0.08パーセントポイント下回り、トラッキングエラーは日々の分配金再投資基準価額より算出した年率換算値で0.15%となりました。

※「トラッキングエラー」とは、当ファンドの基準価額のベンチマークに対する超過騰落率のばらつきの度合いを示すものです。具体的には日々の超過騰落率の標準偏差を年率換算したものです。この値が小さいほど過去のファンドのベンチマークに対する日々の連動率が高いと考えられます。

#### <今後の運用方針>

日経平均トータルリターン・インデックスおよび東証REIT指数(配当込み)を50:50とした合成指数に連動する投資成果の獲得を目指して運用を行います。マザーファンドの組入比率を高位に維持するとともに、マザーファンドを通じた株式およびJ-REITの実質組入比率が、各々純資産総額の50%程度となるように適宜調整を行います。

※ 今後の運用方針等は、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。また、市場環境等についての評価、分析等は、将来の運用成果を保証するものではありません。

## ファンド情報

設 定 日	2017年9月22日
償 還 日	原則として無期限
決 算 日	毎年9月8日(休業日の場合は翌営業日)

## ファンドの特色

**1** | 日経平均トータルリターン・インデックスおよび東証REIT指数(配当込み)を50:50とした合成指数に連動する投資成果の獲得を目指して運用を行います。

●ファンドのベンチマークは合成指数です。

ファンドは以下のマザーファンドを通じて、日経平均株価採用銘柄および不動産投資信託(J-REIT)にそれぞれ50%程度投資を行います。

日本インデックスオープン225・マザーファンド

J-REITインデックス・マザーファンド

**2** | 株式への投資にあたっては、日経平均トータルリターン・インデックスに連動する投資成果の獲得を目指し、当該指数採用銘柄を投資対象とします。

\*流動性に著しく欠ける銘柄や信用リスクが高いと判断される銘柄等の組入れは行わないことがあります。また、当該指数との連動性を維持することを目的に、株価指数先物等に投資を行う場合があります。

**3** | J-REITへの投資にあたっては、東証REIT指数(配当込み)に連動する投資成果の獲得を目指し、当該指数構成銘柄に投資を行います。

\*当該指数との連動性を維持することを目的に、J-REITを投資対象とする上場投資信託証券(ETF)およびJ-REITの指数を対象とする先物等に投資を行う場合があります。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

## ●分配方針

毎年9月8日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。

- 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。
- 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。

※分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

## ■ 基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内の株式、不動産投資信託等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

### ● 主な変動要因

#### 株価変動リスク

株式の価格は、発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

#### 不動産投資信託のリスク

##### ● 価格変動リスク

不動産投資信託の価格は、保有不動産等の価値や賃料収入の増減等に加え、市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

##### ● 分配金(配当金)減少リスク

利益の大部分を投資家に分配(配当)するなどの一定の要件を満たすことにより、法人課税が減免される等の税制上の優遇措置を受けているため、利益と分配金(配当金)との連動性が高く、利益が減少した場合には、分配金(配当金)も同様に減少する可能性があります。

#### 信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となることがあります。

### ● その他の変動要因

不動産投資信託のその他のリスク(信用リスク、業績悪化リスク、自然災害・環境問題等のリスク、法律改正・税制の変更等によるリスク、上場廃止リスク、流動性リスク)

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

## 投資リスク(2)

**■ その他の留意点**

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- ファンドは、合成指数の動きに連動することを目指して運用を行いますが、有価証券売買時のコストや信託報酬等の費用を負担すること、売買約定価格と当該指数の評価価格とに差が生じること、先物と指数の動きが連動しないこと、指数構成銘柄と組入銘柄および構成比に違いが生じること、指数構成銘柄が変更になること等の要因により乖離が生じることがあります。

**お申込みメモ**

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。 ただし、確定拠出年金制度によるご購入は、1円以上1円単位とします。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
購入代金	販売会社の定める期日までにお支払い下さい。 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にご確認下さい。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
換金制限	ありません。
購入・換金 申込受付の 中止及び取消し	取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。
信託期間	原則として無期限(2017年9月22日設定)
繰上償還	受益権口数が5億口を下回ることとなった場合、日経平均トータルリターン・インデックスもしくは東証REIT指数(配当込み)が改廃された場合、やむを得ない事情が発生した場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年9月8日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資します。
信託金の限度額	2,000億円
公告	原則として、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。 <a href="https://www.sbiokasan-am.co.jp">https://www.sbiokasan-am.co.jp</a>
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて交付します。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用				
購入時手数料	ありません。			
換金時手数料	ありません。			
信託財産留保額	ありません。			
投資者が信託財産で間接的に負担する費用				
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額×年率0.209%(税抜0.19%)			
	配 分	委託会社	年率0.085%(税抜)	委託した資金の運用の対価です。
		販売会社	年率0.085%(税抜)	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
		受託会社	年率0.02%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
その他費用・ 手数料	監査費用:純資産総額×年率0.011%(税抜0.01%)			
	有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。 ※運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。			

※運用管理費用(信託報酬)、監査費用は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに投資信託財産から支払われます。その他費用・手数料(監査費用を除きます。)はその都度、投資信託財産から支払われます。

※ファンドに係る手数料等につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。なお、上場不動産投資信託は市場の需給により価格形成されるため、上場不動産投資信託の費用は表示しておりません。

委託会社および関係法人の概況

委 託 会 社 SBI岡三アセットマネジメント株式会社 (ファンドの運用の指図を行います。)

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第370号  
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

受 託 会 社 株式会社りそな銀行 (ファンドの財産の保管及び管理を行います。)

## 日本株式・Jリートバランスファンド

追加型投信／国内／資産複合／インデックス型

### 販売会社について

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
<b>(金融商品取引業者)</b>					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
SMBC日興証券株式会社	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
篠山証券株式会社	近畿財務局長(金商)第16号	○			
Jトラストグローバル証券株式会社	関東財務局長(金商)第35号	○	○		
静岡東海証券株式会社	東海財務局長(金商)第8号	○			
株式会社しん証券さかもと	北陸財務局長(金商)第5号	○			
東武証券株式会社	関東財務局長(金商)第120号	○			
播陽証券株式会社	近畿財務局長(金商)第29号	○			
松井証券株式会社	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
寿証券株式会社	東海財務局長(金商)第7号	○			
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○			
<b>(登録金融機関)</b>					
株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者:マネックス証券株式会社)	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者:マネックス証券株式会社)	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
おかやま信用金庫	中国財務局長(登金)第19号	○			
株式会社三十三銀行	東海財務局長(登金)第16号	○			
PayPay銀行株式会社	関東財務局長(登金)第624号	○		○	

(注) 販売会社によっては、現在、新規のお申込みを受け付けていない場合があります。



日本株式・Jリートバランスファンド  
追加型投信／国内／資産複合／インデックス型委託会社  
お問い合わせ先電話番号  
03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)ホームページ  
<https://www.sbiokasan-am.co.jp>

## ご注意

- ・本資料はSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。投資信託説明書(交付目論見書)の交付場所につきましては「販売会社について」でご確認ください。
- ・本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。
- ・本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- ・本資料は当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。